

2025年度（令和7年度）自己評価書

2026年(令和8年)3月31日
宇部さゆり幼稚園

1 自己評価の概要

- (1) 実施時期 2026（令和8）年1月
- (2) 実施者 教諭9名（うち常勤5名、非常勤4名）
- (3) 実施結果の概要

I「保育の計画性」、II「保育の在り方、園児への対応」、III「保育者としての能力や良識・適正」、IV「保護者への対応」、V「地域の自然や社会とのかかわり」、VI「研修と研究」の6分野に分け、さらに分野ごとに、個別の評価項目を定めて実施した。

最も評価が高かったのは、IV「保護者への対応」、次いでIII「保育者としての能力や良識・適正」、II「保育の在り方、園児への対応」、V「地域の自然や社会とのかかわり」となっている。

逆に評価が低かったのは、I「保育の計画性」、VI「研修と研究」であった。

評価の平均を見ると、昨年度と比較してすべての項目で向上しており、特にIV「保護者への対応」では21%、V「地域の自然や社会とのかかわり」では32%の向上が見られた。

昨年度評価の高かった「保護者への対応」、「保育者としての能力や良識・適正」、「保育の在り方、園児への対応」については更なる向上、評価の低かった「地域の自然や社会とのかかわり」は大幅な向上が見られ、課題が見受けられた「保育の計画性」、「研修と研究」においても15%向上しており、改善の効果が上がっている。

- (4) 分野ごとの検証結果と改善策

I「保育の計画性」

園の教育理念・教育方針、幼稚園教育要領の理解はできており、その方針や内容についての協議も昨年度に比べ充実してきた。しかし、年度途中入職教員もおり、常に教員の連携を意識し、コミュニケーションを図っていくことが必要である。

II 「保育の在り方、園児への対応」

ほとんどの教員が概ねできていると評価しているが、自己評価のため自分に厳しく評価している面も見られる。「全体で話し合い、共通理解をもって対応する」という項目の評価が低い教員もいたことから、今後の更なる教員相互の協力・連携が求められる。

III 「保育者としての能力や良識・適正」

ほとんどの教員が概ねできていると評価している。ただし、「より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している」という項目の評価が低い。「研修と研究」の分野とも関わりがあるが、園としてより専門性を高める研修を推奨し、互いに高めあう雰囲気を醸成していくことが必要である。

IV 「保護者への対応」

ほとんどの教員が概ねできていると評価している。特に、守秘義務については全員が遵守できている。また、保護者からの様々な訴え、要望、意見については、常に園長や主任に連絡、報告、相談があり、全教員が真摯に対応できている。

V 「地域の自然や社会との関わり」

「小学校との連携」分野での評価が昨年度に比べて高くなっている。保幼小連携について研究会で実践を発表する等、小学校への接続について教員の意識が高まり、小学校へ安心して進学できる教育が展開されている。今後認定こども園に移行することも踏まえ、一層地域との連携を深めていく必要がある。

VI 「研修と研究」

昨年度は「教諭としての専門性に関する研修・研究」の評価が低かったが、本年度は評価が向上している。どの項目も概ね向上しているが、6つの評価分野の中では一番評価が低い。「教諭としての専門性」に加え、「今日的課題」にも目を向けた研修を進めていく必要がある。